



生涯青春

藤田 价彦

私は悪性リンパ腫を患い、2月に再発し入院して早くも5ヵ月が経過した。昭和20年生れで今年は高校卒業50年記念と古希を迎えるに当り、同窓会開催の案内状が3月に届いた。昨年から情報を入手していたので、同期生と会える日を大変心待ちにして居ただけに、不参加の理由を書いて返信した時は残念で悲しかった。同窓会場は故郷岡山県津山市に隣接する湯郷温泉で、近くに両親と先祖の墓があり墓参予定だったが、行けなくて悔しく思った。

抗ガン剤の副作用で落込んでいた時、同窓会不参加を知った旧友数名から電話やメールで励まされ勇気と元気もらった。5月末には同窓会の写真・参加者57名の名簿・34名の激励文の入った郵便物が届いた。小さな便箋に書いてある激励文は何よりの薬であり、友情と絆の強さに感謝の念を抱きながら読んでいる臉が熱くなった。

約9年前に還暦記念同窓会の時、私はサムエル・ウルマン作の「青春」という名の詩をクラスメートに配布した記憶があり、頂いた激励文に「今でも時々読んで自分への励みにしている」と書いた女性が居た。座右の銘として持っていてくれた事が嬉しかった。

この詩は35年前（昭和54年）に勤務していた会社の社長が全社員に訓話する時、引用されたものです。今でも大企業の経営トップの方が、入社式や研修会又は結婚式等で教訓として話されているようです。

昭和52年に大ヒットした唄の中に「青春時代が夢なんて、あとからほのぼの思うもの」という一節があり、一般的には10代～20代の若い時代を青春と言うのが普通だが、サムエル・ウルマンは青春を別の観点から表現している。

訳詩を要約すると次のとおりである。

「青春とは人生のある期間を言うのではなく、心の持ちかたを言うのだ。たくましい意志、豊かな想像力、燃える情熱、安易を捨てる冒険心、こうゆう心の様相を青春と言うのだ。年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる。人は信念と共に若く、疑念と共に老いる。希望ある限り若く、失望と共に老い朽ちる。」

私は支えとなったこの詩と、深い友情で結ばれた同窓生を味方にして病氣と立ち向かっている。苦しく辛い闘病生活をしている患者の皆さん、生涯青春の精神を持って、これからの人生を明るく前向きに暮らしていこうではないか。

